議　事　録

－令和５年度第１回浜松市森林・未来構想会議－

日時：令和５年８月 21 日（月）午後１時 30 分～４時 00 分
場所：浜松市役所本館８階　第３委員会室
内容：

１　開会

２　あいさつ

３　議題

（１）令和４年度森林環境譲与税活用事業の実績について　【資料１】
（２）令和５年度森林環境譲与税活用事業の計画について　【資料１】
（３）意見交換

①森林環境譲与税の活用方法について（評価・検証・提言等）

浜松市

まずは、森林環境譲与税を活用した個別具体的な事業について、評価・検証・提言等をいただきたい。

No.	内容
1	委員 森林環境譲与税が導入されて、だんだん<u>譲与税が一般財源化されている。</u>行政が努力したことはよくわかっているが、非常に残念な状況ではある。 浜松市 林業部局としても本来ではないことは承知で、声を上げてはいるが、本市の財務部局との調整によって希望通りにはいっていない実態がある。 このような御意見について、提言書に盛り込むことも可能。皆様のお力もお借りしたいとも考えている。
2	委員 譲与税充当事業が既に決定しており、入る余地がない状態。<u>本会議での提案や新規事業等に柔軟に使用できる予備予算のようなものがあればよい。</u> 浜松市 当初予算から基金に積む要求をすると、必要ないのではないかと見られてしまうため、まずは全額事業に充当する予算要求をしている。 入り込む余地はある。必要だという形になれば、新規事業を譲与税活用により実施したいという意思表示はできる。ただ、市のシステム上、どうしても財務部局を通らないといけない。そこで、すべて我々の思い通りになるかというと、難しい現状ではある。 委員 だが、静岡県の森づくり県民税は、必ず森林整備に活用されるよう、うまく制度化されている。いい例がある中で譲与税では一般財源化されていることは残念。

	浜松市 　厳密に言うと、使途を明確とする目的税である森づくり県民税と特別税である譲与税のシステムは異なる。 県天竜農林局 　森づくり県民税は荒廃森林の整備だけに使うということで、県民の皆さんからいただいているもの。譲与税は各市町村が、森林整備に限らず森林・林業全般に対して使うこととして国が作った制度。各市町村様々な事業を進めており、浜松市ではこうやって色々と事業を進めてもらっている状況。 　今の一般財源の話について言えば、譲与税開始前には実施していなかった事業も多いはず。色々な意見を皆さんから伺って、来年度もしくは再来年度以降に優先順位をつけながら進めていったらどうかと思う。
3	委員 　改めて森林環境税の徴収が開始となるこのタイミングで考えた時に、**今後求められる説明のために、浜松市としての譲与税活用の方針（理念）が必要**である。 　森林資源を「社会共通資本」と捉えて、100 年後、200 年後のあるべき姿を構想しながらその資源を活かす事業を展開させていくべき。 　※参考文献：社会的共通資本　宇沢弘文　岩波新書　2000 年 　　　　　　　社会的共通資本としての森　宇沢弘文・関良基 編　東京大学出版 2015 　**事業の見せ方も再考すべき（理念の設定→枠組みの設定→個別事業）。** 浜松市 　譲与税活用事業については、理念、枠組み、その下にカテゴライズされたどのような事業があるのか、見せ方も考えていきたい。
4	委員 　浜松型林齢平準化促進事業について、高齢級のみを対象としては、いつまでたっても平準化が進まない。高齢級のみを対象とするのではなく建築・設計が求める 60～80 年の木も対象としていくべきではないか。 　また、これまで進めてきた FSC を更に推進するために、譲与税を活用してはどうか。
5	委員 　浜松の製材分野に未来はないと思っている。今動かなければ中小事業体は今後厳しい。30 年後自分の子に継がせるには色々な課題がある。 　**一番問題なのは、作ったり切ったりしたものの出口がないこと。**丸太は海外への販路などあるが、製材はそうはいかない。 　**どこの分野も担い手不足が深刻。**譲与税を使って新規従業員の給与を補助するなど更に踏み込むことはできないか。 　林業は労働条件だけ見られれば選択されづらい職業。社会性のある分野であるため、見せ方を工夫した魅力発信が必要。 　この会議のメンバーが言ったことはやっていくということで決まるのであれば、この会議も生きてくる。例えば、市長にこれを進めていくと言って、トップダウンでやっていけるのであれば皆さんから出る情報も生きてくると思う。

	浜松市 　市長または副市長への提言書の提出については、意見のアウトプットの一例。この会議で出た意見を、みなさまが市長または副市長に渡すことで価値を持たせたい、実効力・実効性を高めたいと考えている。
6	委員 　天竜材の家百年住居る事業について、工務店の認知度は８割だと思っている。本事業を使用している事業者には好評であり、FSC 認証材を顧客に説明する機会ができ、もっと広がっていくはず。 　一方で、事業を活用するための書類作成にかなりの労力がかかっているが、工務店の諸経費が補助対象外であるため、事業を活用したがらない工務店がいるのも事実。事業をより広げるためにはその費用の補助もあると良い。
7	委員 　カーボンクレジット事業について、今の浜松市の取組は遅いと感じる。もっと業界を巻き込んで急いで進めるべき。各地でニーズが上がっているが、浜松市一体として、取り組むべきだとは思っている。 浜松市 　カーボンクレジットについては、先週、天竜林材業協議会を中心として進めていくことで意思決定がとれたところ。それまでの準備に時間がかかってしまった。 　国内制度の取得をまずは進める方向で、国際制度もアドバイザーの協力のもと、引き続き研究していく。

②浜松市の森林・林業の将来像について（課題・提言等）

浜松市

　これからの本市の森林・林業はどうあるべきかという方向性を見出したい。

　事業化に向けた担保と外向けに発信したいという思いから、議論のアウトプットを何かしらの形で行っていきたいと考えている。

　まず、市としては、将来像がなんとなくぼんやりしてきてしまったと感じている。合併後に「浜松市森林・林業ビジョン」を掲げ、それに沿って進めてきたが、20 年近く経ち状況も変化した中で、今一度、本の森林・林業の将来像について、皆さんのご意見を伺いたいと思っている。

No.	内容
1	委員 　20 年程前に環境に舵を切って FSC を取り入れ世界に発信していった当時の理念を忘れずにいってほしい。 　FSC と SDGｓに関係性があり、カーボンクレジットも入ってくるわけであるから、もう一度原点に戻って、環境に配慮しながら進めていくべき。 　重要なのは川上から川下がそれぞれを考えながら施策を進めていくこと。
2	委員 　受講した FSC ジャパンの講座では、再造林（苗木等）に対する補助が足りないのではない

	か、といった話があった。 林業、農業、漁業といった１次産業は社会的資本として維持する必要がある。業としての自立ではなく社会全体で支える産業であることの理解推進を行っていくべき。「どのように稼いでいくか」という考え方で進めるべきではない。 **浜松市** 補足だが、間伐や再造林に対しての補助金が国や県から 2/3 の補助金を出しており、市ではその残金の FSC 認証林であれば 2/3 の補助を行っている。 かなりの割合で補助は出ているということは御承知いただきたい。 **天竜森林管理署** 補助金の話でいうと、個人の財産形成のための補助することはしないため、林業での補助金は、やはり社会資本、国土保全という意味合いが大きい。
3	**委員** FSC に関わってきた中で、FSC の優位性は何だろうと非常に悩む。 たしかに**市外に対しての「地産外商」も必要だが、「地産地消」をもう少し進めていいのではないか。**地産地消が進めば他地域の林業関係者や建築・設計者から、産地としての注目が集まるのではないか。 **委員** 当時は FSC を取得すれば林業は儲かるといった誤解があった。東京オリンピックで一旦アは盛り返したが、SDG s やクリーンウッド法がある中で、今一度立ち返って、FSC について環境の観点から見直していくべき。
4	**委員** まずは、みんなが知って理解する必要がある。きちんとした教育がされていない結果、住宅については、エンドユーザーはデザインだけで選択してしまっている。地元に天竜材があるということを知ってもらうために教育していく必要がある。 **浜松地域は、豊富な森林や加工場があり、首都圏にも近く、非常に恵まれた林産地だと感じている。それをエンドユーザーが知って、使っていくための仕組みづくりが重要。** 浜松市は、気軽に見ることができる木造の公共建築物が少ないと思う。全国的にも少ないかもしれないが、浜松はこういう地域なのだと進めていくべきでは。 **委員** 思い返せば、環境譲与税を使って公共建築物を造ることに抵抗がありすぎた気がする。 **委員** **公共建築物の木造化は、出口対策として必要。**事業体も住宅レベルではなく、中規模、大規模を知ることになる。ノウハウも積めるし、規模も大きくなるため水平連携や垂直連携が生きてくる。 **浜松市** 今後の新しい建築物で言うと、武道館や道の駅が想定される。こういった施設の木造化について提言していくというのもひとつかと。 **委員** 地産外商がなかなか難しくなってきた中で、浜松で内需を作り出していかないといけない。

	委員 市内のゼネコンが木材利用を苦手としていることは事実。ゼネコンに対して、木材利用の意義を伝えていかなければならない。 建築・設計はそのほとんど伐採現場を見たことがない。山側に対してもっと関心を持ってもらうよう動いていく必要がある。
5	委員 例えば、「みんなで育てる天竜の森」のように「育てる」といった意味合いのキーワードが必要ではないか。ベースとしての意識は所有や私有を超えた概念で考えていく必要がある。育林・造林というものではなく、「循環」のイメージ。 浜松市 ビジョンを変えていくつもりはないが、現在のビジョンはFSCの取得までしか書いていない。取得してきたFSCをどう活用しながら、皆さんがおっしゃったことを進めるためにはどうしたらいいか。そのための旗印を掲げ、現在こういったボトルネックがあり、それを解消するために譲与税を活用していく、というストーリーにしていきたい。
6	委員 コロナ禍を機に住宅展示場への来場者数が激減しており、ハウスメーカーの売り上げも落ちている。そんな中でハウスメーカーに対して、補助体制が整っていることを売り込むのには、いいタイミング。
7	委員 山を見に来たいという企業が増えてきたが、大型バスが通れない、トイレもないといった課題がある。 せっかくのチャンスがある中で、市として受け入れるためのフィールド整備が必要と考える。 浜松市 企業の意識の高まりは非常に感じる。 委員 その対応をすべて個人に任せられるのは限界がある。 委員 市有地を多くの関係者と協力して整備して、その場所についてはみんなが話をできることが理想。環境教育が収益の柱になってもいいのではないかと思う。その分野のプロを育てていくことも必要。そのためのベースがあれば非常に進めやすい。 委員 現場を知らない設計の方は、木材費は非常に高いものと誤解されていることがある。一度現場を見てもらい誤解を解くことが、木材利用にも繋がる。
9	委員 「育てる」という言葉についての経緯があることを知ったため、「活かす」というキーワードを使ったらいかがか。キャッチコピーの案として「みんなで活かす天竜の森」を提案する。 委員 「天竜の森」ではなく「天竜美林」の方が望ましい。

	委員 昨年度 FSC・CLT 協議会で講師に呼んだ設計の方は、「天竜美林は本当にきれいだ。ぜひ設計に活かしたい」とおっしゃっていた。やはり、実際に天竜美林を見た方には伝わり、次に繋がっていく。 委員 流通、工務店の分野が委員に入っていないが、ビジョンを作っていく中では、意見を伺うことは必要かと。 この会議の意見が２年、３年後には必ず実行されることを願っているため、開催回数は増やしてもよいかと思う。

４　報告、連絡事項

浜松市

追加の御意見があれば、電話、FAX、メールでも結構なため、事務局までお伝え願いたい。

次回会議は改めて日程調整させていただきたい。

５　閉会